

リコーリース株式会社 様

基幹システムの全社端末 1,000 台を 3 カ月で Windows7 へ移行
Citrix XenApp™基盤で Visual Basic の資産継承、セキュリティの強化へ

取引先数 40 万社、年間契約数 40 万件、中小企業を中心に少額・大量契約を強みとする総合フィナンシャルサービス事業会社、リコーリース。同社は、リコーグループにおけるクライアント端末の Windows7 対応に関する要請に応え、Citrix XenApp™(以下、XenApp) の活用により基幹システムの全社端末をわずか 3 カ月で移行完了。ハードウェアから XenApp、アプリケーションまで富士通の一元的なサポートが、短期間構築の成功に大きく貢献しました。今後、同社はシンクライアント化によるセキュリティ強化や業務継続性の向上に取り組んでいきます。

導入事例概要

業 種：総合リース業

ハードウェア：ブレードサーバ PRIMERGY BX900

ソフトウェア：VMWare vSphere 4 Standard、シンクライアントソリューション Citrix XenDesktop™ Enterprise Edition、サーバ OS Microsoft WinServer 2008 R2 Enterprise、Microsoft Windows Server 2008 R2 Remote Desktop Services

課題

基幹システムの全社端末を短期間で Windows7 へ移行したい

短期間構築を成功に導くためにプロジェクト管理の一元化を図りたい

将来的にはシンクライアント化によりセキュリティや業務継続の強化を図りたい

効果

XenApp の活用により Visual Basic 資産を継承しながら 3 カ月で全社端末 1,000 台を Windows2000 から Windows7 へ移行完了

ハードウェアから XenApp、アプリケーションまで富士通がプロジェクト全体のマネージメントを担当。技術と人の両面のサポートで短期間構築に貢献

XenApp 基盤の確立により、端末にデータが残らないシンクライアント化実現の基礎構築へ。セキュアな環境のもと外出先や自宅などでも同じ PC 環境で業務継続が可能に

導入の背景

基幹システムの全社端末を短期間で Windows7 へ移行

リコーリースの取引先数は約 40 万社、そのうち 98% が中小企業のお客様です。円高や資源価格の高騰に加え、東日本大震災の影響により先行き不透明な経済状況にあって、被災企業はもとより日本経済の迅速な復興に果たす同社の役割は大きく広がっています。

同社は、リース・割賦と、集金代行サービスなどお客様の業務効率化をサポートする金融サービスの 2 つの事業を軸とする総合的なフィナンシャルサービス事業会社です。リース製品ではリ

コー関連の取り扱いが約 5 割、その他、医療機器、産業工作機械など重点分野を絞って付加価値の高いサービスを展開。また、カーボンオフセットリースといったお客様の環境負荷削減の取り組みを支援するサービスも提供しています。

同社の強みは、中小企業を中心に年間契約数 40 万件の少額・大量契約によってリスクの分散化を実現し、優良な営業資産を形成している点です。企業基盤の安定性は国内外の第三者機関による高い格付けにもあらわれています。日々の膨大な契約業務を高効率、高品質で処理するためには ICT の活用が不可欠です。

「リース関連を処理する基幹システムは、開発プログラムが 380 万キロステップという大規模なもので、現在も改善を繰り返しています。2010 年 5 月に、リコーグループ全体のセキュリティ強化を目的に、クライアント端末の Windows7 対応への要請がありました。当初の目標は同年 9 月末まで。問題は、基幹システムの全社端末側のオンライン画面が Visual

Basic6.0 でつくられていて Windows7 では動かなかったことです」と、同社 情報戦略部 情報システム室 室長 大淵高明氏は振り返ります。

導入のポイント

XenApp の採用は Visual Basic6.0 資産の継承、発展性がポイントに

Visual Basic6.0 資産を Windows7 で動かすことは、Microsoft .NET にコンバージョンすることで可能です。しかし、大規模なアプリケーション改修を伴うことから数ヶ月での対応は不可能でした。「今回のプロジェクトは 3 つのステップを踏むことにしました。第 1 ステップで、Windows7 に移行しながらも仮想化技術の活用により Visual Basic6.0 資産の延命を図る。第 2 ステップで、Visual Basic6.0 資産の Microsoft .NET へのコンバージョンを完了させる。第 3 ステップで、シンクライアント化し端末側にデータが残らない環境を確立しセキュリティの強化を図っていく」(大淵氏)。



情報戦略部
情報システム室 室長
大淵 高明 氏

同社では複数の仮想化ソフトウェアを検討し、コストと性能のバランスや運用管理面、セキュリティを確保した上でのモバイル環境の活用といった発展性から XenApp の採用を決定。XenApp 基盤の構築パートナーの選択では、短期間構築が重要なポイントとなりました。

「XenApp 基盤はハードウェア、仮想化環境、その上で動くアプリケーションという構成になります。移行の段階で問題が発生したとき、原因究明のために問題を切り分けてじっくりと取り組む時間的な余裕はありません。プロジェクト全体を一元的にサポートできる総合力と技術力、そして XenApp の豊富な実績、Visual Basic の XenApp 対応の経験もあるということで富士通を選択しました」と、情報戦略部 情報システム室 係長 野田拓也氏は語ります。

今回、短期間構築を実現するために、アプリケーションの移行とプロジェクト全体のマネージメントは富士通、インフラの構築は伊藤忠テクノソリューションズ (CTC)、両社の協業でプロジェクトは進められました。

富士通による技術と人の両面からのサポートが短期間構築の実現に貢献

同社の根幹を担うシステムの移行プロジェクトであるため検討や計画を綿密に行う必要があり、実際のキックオフは 2010 年 12 月、納期は 2011 年 2 月末、実質 3 カ月に満たない短期間構築となりました。

「仮想化技術の活用によりアプリケーションの改修はほとんどありませんでした。問題は、

仮想環境上で動かしたときにどの程度、不具合がでるのか。時間がないため、すべてのアプリケーションの動作検証は行えません。テストのポイントを絞り、重要度の高いアプリケーションから実施するなどの工夫をしました」と、情報戦略部 情報システム室 係長 仲谷透氏は語ります。

テストによって不具合も発見しました。その対応について仲谷氏はこう続けます。「富士通の SE と Citrix の技術者の連携が早期解決のポイントになりました。また、問題が発生したためサーバ OS を Windows2003 Enterprise Edition から Standard Edition に変更しましたが、富士通に全体をマネージメントしてもらっていなかったら、原因究明に多くの時間を要したと思います」。

短期間構築の成功のポイントについて「当社、富士通、CTC、Citrix と、複数社にまたがるプロジェクトでいかに円滑なコミュニケーションを図っていくか。プロジェクトの情報共有を実現するために富士通のプロジェクト管理ツールを活用しました。また、多くの関係者間の調整役として、富士通がアサインしたプロジェクトマネージャーの働きも大きかったですね。技術と人の両面から富士通にはサポートしていただきました」と、野田氏は語ります。

導入効果と今後の展望

わずか 3 カ月間で移行完了、今後、セキュリティや業務継続性の強化へ

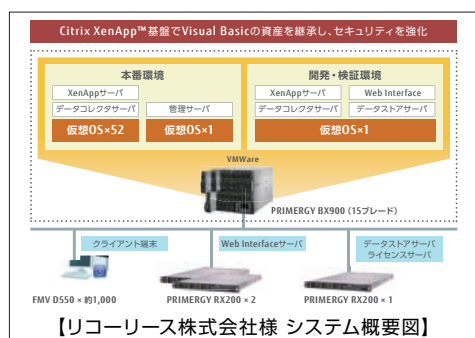
XenApp 基盤は計画通りに 2011 年 2 月末に本稼働。XenApp 基盤の中核には同社で導入

実績があったブレードサーバ PRIMERGY BX900 が 15 枚、仮想 OS が 52 サーバ、その上で全国の拠点で利用している約 1,000 のクライアント端末が動いています。「今回、1,000 人が同時にアクセスした場合でもレスポンスが低下しないようにネットワークの構成を見直しましたが、Visual Basic の XenApp 対応でもレスポンスは全く問題にならないと実感できました」(野田氏)。

XenApp の導入効果について「通常 2 年くらいを要する全社端末の Windows7 への移行を、業務継続性を確保しながらわずか 3 カ月で実現できたという点がまず大きな導入効果です。また、IFRS(国際財務報告基準)対応がまだはつきりしていない時期に、アプリケーションの改修を行うべきかどうか。どのように状況が変化しても柔軟に対応できる選択肢が広がったということもメリットですね」(大淵氏)。

今後の展開について「シンクライアント化して端末にデータを残さない環境をつくることは重要なテーマです。セキュリティを確保した上で、外出先でのモバイルワークや在宅勤務による業務継続性の向上、また外部スタッフの活用など事業戦略の変化にも柔軟に対応できます。富士通にはこれからもフットワークの良いサポートや先進的な提案をお願いしたい」と、大淵氏は語ります。

付加価値の高いサービスの提供により、お客様企業とともに成長を続けるリコーリース。日本経済の活性化に貢献する同社の取り組みを、富士通はこれからも総合力と技術力で支援してまいります。



リコーリース株式会社 情報戦略部 情報システム室の皆様

- 本カタログ記載の会社名、製品名等は、各社の商標または登録商標です。
- 記載されている内容については、改善などのため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。
- このカタログには、環境に配慮した用紙、植物油インキ、有害な廃液を出さない水なし印刷方式を採用しています。

概要

リコーリース株式会社

所在地 東京都江東区東雲一丁目7番12号
設立 1976年(昭和51年)12月
資本金 78億9,686万円
(2011年3月31日現在)
従業員 894名(連結)、744名(単体)
(2011年3月31日現在)
事業内容 総合リース業
ホームページ <http://www.r-lease.co.jp/>

CG4529 2011年12月AP

お問い合わせ先

富士通コンタクトライン **0120-933-200**

受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター